

原野秀永先生のご逝去を悼む

6月20日、名誉会員の原野秀永先生が逝去されました。享年90歳。1957年5月23日の入会以来、50年有余にわたるながきにわたり、ORの実施と普及、後輩の育成に当たり、多大の業績を残されたことは周知の通りです。

本年3月、筑波で行われた学会の大会には御出席になり、折悪しく出席できなかった私には、パーティーの会場から、お元気な声で、お叱りの電話をいただきました。

その後、学会の会議にご出席をお願いしたところ、体調を崩されたとか。後日、気にかかり、連絡したところ、ご逝去との悲しいお知らせをいただきました。

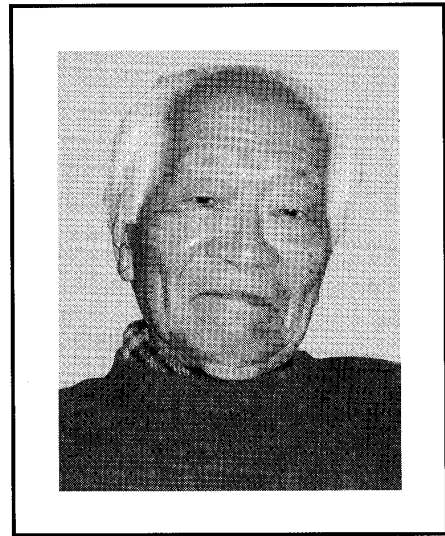
しかし、先生はその暖かいお人柄から、私達にすばらしい思い出の数々を遺して下さいました。学会のパーティーではいつも乾杯の音頭をとっていただいた御温顔が、今も目に浮かびます。豊富な人生経験からの含蓄あるお話を笑いながらしてくださったのが、今も耳に残っています。

海軍で潜水艦に乗っておられた頃のご見聞：基礎理論も確立されていない当時、潜水艦の深度を自動制御しようとしたところ、ハンチングが発生、艦は上下動を繰り返す、流石の海軍の猛者達も船酔いに苦しめられてしまったとのこと。

東芝にご勤務だった頃：東芝の病院を新しくするというので、そのORを担当された先生は患者の待ち時間を測定しようとされました。ところが、その途端に、病気を口実に病院の待合室に巣くっていた不良社員が雲散霧消。新しい病院の基礎となるべきデータが得られず困ったというお話……。

東芝時代には、自ら先頭に立って問題の解決に当たることを専らにし、管理の立場に移ることもあえて拒否されたとか。しかし、文教大学に移られてからは、学部の新設にともなって教育システムの策定、設備、人事、運営という全面にわたるご苦勞をなさったようです。折しも、IT時代への突入期でした。コンピュータの大量教育用の大教室の設営に腐心しておられました。

都塵をさけてあきる野に居を定められ、ご引退の後、山野と民俗を愛し、古典に親しむとともに、力学



や珠算のことなどを楽しみ、新宿ORクラブには常連としてご出席になっておられました。私も算盤に関する資料をお送りしたのですが、間に合いませんでした。

かえすがえす、残念でなりません。今はもう、ご冥福をお祈りするばかりです。

合 掌
(柳井 浩)

故原野秀永氏略歴

大正7年12月生まれ

〔学 歴〕

昭和18年 大阪帝国大学電気工学科卒業

〔職 歴〕

昭和18年 東京芝浦電気(株)入社

昭和19年 海軍技術中尉任官

昭和20年 東京芝浦電気(株)復職

昭和44年 同電子計算機事業部主幹

昭和50年 日本システム(株) 常務取締役

昭和58年 文教大学情報学部教授

平成4年 同退任

平成8年 文教大学情報研究所退任

〔OR学会関係〕

フェロ 昭和54年度より

第17回普及賞 平成4年度

評 議 員 昭和37年度～平成元年度

無任所理事 昭和42～43年度

庶務理事 昭和44～45年度

表彰委員 昭和49～56年度、昭和59年度～平成3年度

副 会 長 昭和51～52年度

OR基本課題委員 平成5年度

名 誉 会 員 平成5年度